

# あんどうりすの防災四季だより

第44回 放送日：2020.1.31（金）

パーソナリティ：あんどうりす



テーマ：水害の後処理②

「命を守る」という大切なことに役立つのは、  
アウトドアのスキル。

阪神大震災を被災した「あんどうりす」さんが、  
防災・減災の方法を楽しく導きます。

生物材料工学の専門家に聞く

見えないところも濡れている。

まずは被害の発見から。



今週も引き続き

長岡技術科学大学 工学部の准教授  
木村 悟隆（きむらのりたか）先生（※）に

長野など水害の被害に遭った地域のお話を  
お聞きしたいと思っています。

木村先生よろしくお願ひします。

よろしくお願ひします。



(※)木村 悟隆（きむら のりたか）  
長岡技術科学大学 工学部  
生物機能工学専攻 生物材料工学講座 高分子機能工学研究室  
<https://souran.nagaokaut.ac.jp/view?l=ja&u=239>



# 気づかないって、どういう事？

浸水した自分の家が、  
被害に遭っていることに気づいていない。  
という方が、  
結構いらっしゃるという事なんですね。  
それはどういう事なのでしょう？



はい。  
水害で家の中が泥だらけになっていたり  
家具がひっくり返っていたなら、わかりやすいで  
すね。

それらを片付けなければいけないな。  
大変だな。と、  
誰も思うわけです。

畳の部屋だと明らかに  
「畳が濡れちゃったなー」(T. T)  
などと思うのです。



泥やゴミになってしまった物など、  
全部そういう物を外に出して掃除をすると

結構きれいになったように見えます。

ところが最近、  
フローリングが多いですから、  
きれいに掃除をすると、

一見、大丈夫そうに見えたりするんです。



# 見えない場所も濡れている

## ①壁の裏

家が床上浸水になっていたら、  
実は壁の裏側も浸水しています。

壁の裏にある断熱材がもう  
ぐしょぐしょに濡れているのです。

1度濡れたら乾かないので、  
今度はそこから水分が供給されて、

石膏ボードがカビたり、  
木の部分が腐るなど、  
被害が進行していきます。

表からは見えない場所なのです。



## ②床下

床下浸水で、床までギリギリだったというお宅の例もあります。

たまたま訪れたお宅では、

住宅メーカーの技術者さんが、ある点検口から見たら、全く大丈夫だったのです。

私は、あれ？ と思いながら、もう1か所、別の場所から見たらどうかと提案しました。

手を入れてみたら、濡れていたのです。

1部分を切ったらもう、水が滴るように落ちてきました。

でも、家の中、お部屋の中から見たら、何ともないように見えるんです。



なかなかわからないものなんですね。  
臭いもしないんですか？

お掃除をして、  
家の中はキレイになっていますから、  
臭いも、あまりしないケースもあります。



# 知らぬがカビだらけ

知らずにそのまま住まわれて、  
実はカビだらけという事があるのですね？

ありますね～  
たまたま訪れたお宅では、  
私や他の専門家の方が、

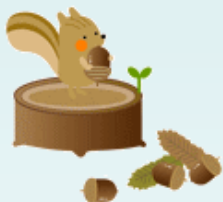


ひょっとしたら！？  
と気が付いて確認してみた事が  
被害の発見につながりました。

もし、お住いの方だけでと、  
そういう事が分からずに時間が経ってしま  
います。

半年後、1年後になった時に  
カビて来た！  
腐ってきたなど、

そうになってしまう可能性が出てきます。





# 誰が動くのか？

専門家に見ていただいて被害を発見、  
そしてきちんと対処していく。  
という事が重要になりますね。

その修理は誰がやるんですか？  
関係の行政などが行うのですか？

行政がやる仕組みは無いのです。

被害が1件、2件の自治体であれば、  
あるいはお金の準備があれば、

工務店さんにお任せすれば良いと思います。

壊すのにも、資金がかかりますから。



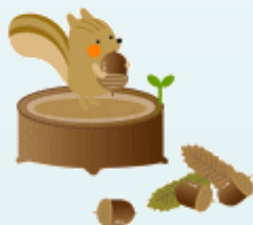


それ以前に、  
今回のような大規模な水害(※)では、

修理の対象が100件、200件と  
1軒の工務店さんが多数抱えてくるよう  
になります。

そうなるともう、  
実際、

工務店さんは行かれないです。



(※)  
2019年台風19号



# 工務店さんが指導

実際、どうされているんですか？



例えば、  
西日本豪雨(※1)の際には、

工務店さんが住民の方に、

壁裏や、床下の浸水の確認を、  
このようにやってくださいと指導をしました。

(※1)  
平成30年7月豪雨



壁の裏側には、  
様々な配線や、筋交いがあったりと、  
いろいろなものが入っています。

例えば、  
のこぎりでザクッと切ってしまうと

大事な配線や筋交いも、  
一緒に切ってしまう可能性があるわけです。

ですから、  
必ず工務店さんに確認してから行う必要が  
あるのです。

その後、  
実際の作業はだれがするのか？  
というのも、  
ひとつ問題です。



# 大工さんと一緒にやる

被災した皆さんが、自分でやっているという状況なのですか？



あ、そうでもなくて  
長野の場合では、  
親戚に大工さんがいる方々の割合が多く、

大工さんと一緒にやるような形で  
できました。

また、高齢者の方、  
普段から歩くのもままならないような  
ご高齢の方ですと、

大工仕事は難しいです。

ボランティアが行う場合もあります



# ボランティアの悩ましい事情

社協(地域の社会福祉協議会)が、  
ボランティアセンターを運営しています。

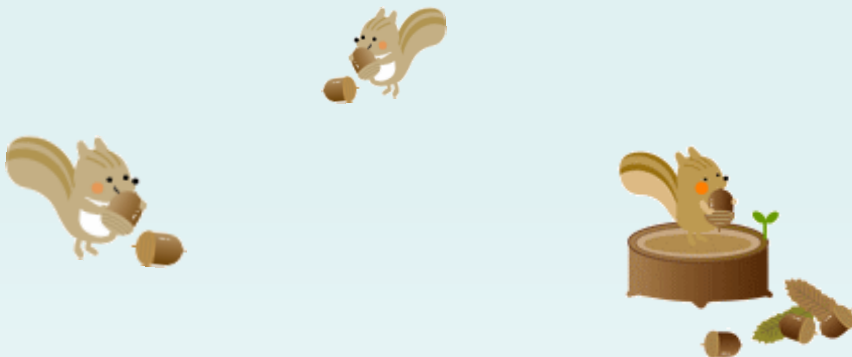
大工仕事はどうしても、  
個人の財産をいじるという問題もあります。

家の修理には、あまり公式にはボランティアを  
入れていない。  
という状況があります。

ここが非常に悩ましい問題にはなっています。

では誰が直すことができるのか？  
という事が、

実は問題になっているのです。



## 水害からの復興の特徴2

水害と地震後の主な違いというのは、  
修理に関することにも表れるのですね？

そうですね。

最初の泥の片付けもそうですし、  
その後の応急処置というのも、

水害ではどうしても、  
自分たちでやらなければならない事が  
多いですね。



地震の被害ですと、  
傾いた家を直すという事になれば、



工務店さんや、建築士さんの仕事です。

住人は、任せて待っているだけ。  
というふうになります。



そこが大きな違いですね。

そうなんですね。

水害の後始末の実態、  
なかなか知りえない現地の情報などをお聞  
かせいただきました。

木村先生、  
どうもありがとうございました。

はいこちらこそ。  
ありがとうございました。



(TEXT/はしも)